

毎 日 歌 壇

〔第3種郵便物認可〕

米川千嘉子 選

かさはって身を塞いでいるころ小さくた  
んで笑ひましたら 名古屋市 屋 河  
△評▽深く関わっている身体とこころ。現  
在の身体の不調がこころ由来だとわかって  
はいるのだが。上句の比喩に実感が。

石油施設破壊されるを聞きながらひと五十九  
田の鮎魚食ふ 堺市 門哉 慧遠  
△評▽ニュースで見る惨状と自分のつまし  
さ。遠くへ、しかしつながっている。

切り株に個体番号うたれて幻視のごとくあ  
の桜見ゆ 東京 浅倉 修  
幼子がいとも違ふとよく見ればおしやぶり  
のなき口に春風 鹿嶋市 大熊佳世子  
「証紙一万だ」とだれも言わずして収入証紙  
は廃止されゆく 千葉市 深海 泰史

意味なんてあるのかないのか今買った三文判  
押すしかつめらしく 浜松市 久野 茂樹  
あの男も櫻が切れたか声あげて泣いて居るな  
り銀行の中 大阪市 森川 慶子

五十年ローンの長きを憂う父 長きを権利と  
言つてのける子 東京 富見井高志  
かすみ草最後に活けて整いぬ彼女はそんなか  
すみ草なり 姫路市 おのえ双葉

水売り場からんとうなりヒーファスが出たさ  
れた故郷の地の 金沢市 竹内 一二

加藤 治郎 選

まだだれもきれいに言ったことがない「滅び  
よ」と言つてみる夜 垂水市 岩元 秀人  
△評▽滅びは美しい。作者の思想である。  
きれいとほ麗しい音が響く様だ。私が世界  
を滅ぼす。鬼才岩元秀人の傑作である。

ココア味の揚げパンが付くモーニング口を拭き  
ながら美味しいと言う 岐阜市 山上 秋恵  
△評▽岐阜はモーニング王国である。個性  
的なパンだ。四句めのスケッチがよい。

ストロベリー・ショートケーキを食べまじょう  
その後波に攫われまじょう 川越市 松永 渚  
ダーリンの響きを抱きヒマラヤの誰かを想う  
ダーリンティー 北九州市 もりともみち

入浴介助終えた君の目の前に笑み笑や夢見草  
立つ 須崎市 野中 泰佑  
「鉄人28号」もリモコン次第で敵となるドロ  
ーン然り兵器と成りき 京都市 櫻井 稀衣

口いっぱい頬張る葡萄舌の目に映る五月の  
風は清かに 川崎市 新井 将  
昔ほど怒らなくなり同じだけ信じることも滅  
つて夕焼け 名古屋 森本 有

絡まったシルクの糸の青色が滴るように言っ  
た「ごめんね」 広島市 白岩 青依  
こなければ永遠に夜だ(ほんとうに水平線が  
ひかっている！) 守口市 寺前 晴

水原 紫苑 選

身を投げるなら花吹雪の中へ。同化してもう  
姿も見えぬ 甲府市 村田 一広  
△評▽こつして花吹雪はたゞさんの人を自  
分の肉体のうちに入れてしまふ。さくら色  
の肉体は死ぬことがない。

火でできた花を夜空に咲かせたいと最初に願  
った人のいたこと 福岡市 水川 海  
△評▽ふれがたい火の花が、ふれがたい空  
に咲く時、最初の人の心にもふれる。

夏薔薇の抑えきれない奇立ちがすれ違ひさま  
鼻先を打つ 高島市 くらたか湖春  
深海に棲んでた頃の記憶だらう暗闇のなか目  
をあけている 所沢市 里見 脩一

プランコの頂で感じる無重力一瞬だけの宇宙  
飛行士 倉敷市 中路 修平  
つぎつぎと花を咲かせるシクラメン重い負担  
を背負いたること 東京 野上 卓

歌詞の意味が徐々にわかってくるように初夏は  
仕事が終わってくるわ 横浜市 永永 キヌ  
魔法とは食器に水を浸けているきみの手元で  
起きているのだ さいたま市 雨谷 詩穂

夜空から星を抜きとる握力にきみの涙が似る  
までをみる 大阪 中村 杏  
羽のないおしやべりをする僕たちに挟まれて  
天空めくテール 横浜市 安西 大樹

伊藤 一彦 選

桜見て解れる心があるのならまだ大丈夫、そ  
う言い聞かせる 奈良市 久保 祐子  
△評▽美しい桜の花を見ては何の感興も覚  
えなくなつた怖いが「まだ大丈夫」と歌  
う。「そう言い聞かせる」が深く心に残る。

しつけ糸抜いてないよと言ひそひれ小さい子は  
もうどこにもいない 豊後大野市 菜 瑞菜  
△評▽しつけ糸を知らなかったのか、知っ  
てはいたのか。元気な子の様子が伝わる。

アメリカの子どもが書いたブランド色鉛筆  
の線は乱れて 神戸市 綾 香音  
休日ワゴン列車に外つ国の土の匂ひの若  
者が乗る 瑞穂市 渡部 芳郎

人はみな桜を見よと顔を上げ先に見える雲  
に気づかず 越谷市 水奈月につく  
子は友に夫は仕事にさらわれて出たぞ一週末  
孤独妖怪 枚方市 坊 真由美

施設での介護休めて家族での介護が迫る介護  
士の春 須崎市 野中 泰祐  
この歳で傷つくこともあるのかとコフシの白  
は包帯の白 川崎市 棚田 宏明

キウイ棚の補修始めぬ今回は妻が主役で我は  
脇役 埼玉 佐々木照雄  
海峡を渡れたことが速報に そんな時代を初  
めて生きる 大垣市 松田早百合

投稿規定 はがき1枚に選者を指定し、未発表の  
自作を2首・2句まで。住所、氏名、年  
齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051 (住  
所不要) 毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句  
は「毎日俳壇」、〇〇先生 (希望選者名) 係へ。毎日新  
聞デジタルの投稿フォーム (https://mainichi.jp/k  
adan-haidan/) でも受け付けています。

詩歌便り  
◇第25回俳句四季大賞—片山由美子『水柿』▽  
第14回同新人賞—加那屋こあ『ふれ合わず』▽第  
13回同特別賞—内村恭子『多神』  
◇第17回日本歌人クラブ大賞—久保田登『百花  
蜜』▽第53回日本歌人クラブ賞—恩田英明『鶯が  
くる』▽第32回同新人賞—種市友紀子『蓮の島』  
▽第24回同評論賞—河田育子『古典の小藍』